

3.あなたの “知りたい”にお答えします！！

地域移行の Q&A

対象となる方は？

A. 地域移行を望むすべての方が地域移行の対象です。

意思確認の方法は？

A. 将来の暮らしの場を選択するという大きな意思決定に向けて「着替え、買い物、食べ物、外出先など、本人が選択する」この日常の小さな意思決定を積み重ねていくことが重要です。

家族にはどういう説明がいいの？

A. 地域移行支援の過程のなかでご家族にも繰り返し情報を共有し、ご家族の不安に寄り添い、安心してもらえるような関係づくりを目指します。
また、地域移行後、もし上手くいなくても、その生活を途切れさせないような制度を整えています。それは、一つの事業所のみで行うのではなく、川崎市全体の支援者間でご本人の地域移行を支えています。

上手くいかなかった場合、どうなるの？

A. 川崎市では、移行後間もない時期において、精神的に安定しない時や、環境調整を必要とする際に、手厚いバックアップを可能にする仕組みがあります。それを活用し、地域の支援チームが連携しサポートしていきます。
(ガイドライン緊急時対応、巻末「31川障計第1623号」参照のこと)

ガイドラインに関する問い合わせ先

川崎市総合リハビリテーション推進センター企画・連携推進課

〒210-0024 川崎市川崎区日進町5-1 川崎市複合福祉センター「ふくふく」内2階

TEL 044-200-3197 / FAX 044-200-3974

ガイドラインはこちらから



Colors, Future!
いろいろって、未来。
川崎市

川崎市入所施設からの地域移行業務ガイドライン

概要版 (Ver.1.0)



地域移行

～わたしが私らしく暮らす場所に出会うために～



1 どうやるの！？地域移行！

地域移行とは、本人の望む暮らしを実現するための過程です

—自宅など—

地域生活の継続が困難



入所

—入所施設—

生活を整える



チャレンジ

—GHや自宅—

希望の暮らし



ポイント

本人

どこで誰と暮らすかは、本人が決めることで、権利として保障されています。

意思

日常の小さな意思決定の積み重ねが、「どこで暮らすか」といった、将来の大きな意思決定に向けた力を育てます。

挑戦

地域移行は、本人が希望する「新しい暮らし」へのチャレンジです。

川崎市では、「川崎市入所施設からの地域移行業務ガイドライン」の作成を通じて、様々な機関が一体となって地域移行をサポートする体制を構築し、本人が「チャレンジ・安心・選択」できることを目指しています。

2.地域移行のすすめかた

※ 行きつ、戻りつしながら、フェーズは進んでいきます。

「地域移行」を実現する8+1のフェーズ

フェーズ0
入所の検討

フェーズ1
申請～入所

フェーズ2
施設に慣れる

フェーズ3
ニーズを探る

フェーズ4
希望の生活へ

フェーズ5
体験・移行へ

フェーズ6
地域生活

フェーズ7
続・地域生活

緊急時！

本人が真に望んだ入所とは限らない	生活の再構築をスタート	ゼロから組み立てる貴重な機会	目指すべきは施設での落ち着いた暮らしではない	本人の希望・・・何もしなければ出てこない	チャンスがあればすぐにでも	新たな支援者へ支援のバトンをつなぐ	インフォーマルサービスの拡充	不調要因の確認
これからどうなっちゃうのかな	しばらくここで頑張ってみようかな	こういう時はどうすれば良い？	ここでの生活も慣れてきたな	こんな暮らしがしたいな	施設の暮らしとどう違うのかな	楽しみを増やしていきたいな	今の生活楽しいな	たすけて！
	入所に向けた各種カンファレンス参加	生活環境の整備	ストレングスやエンパワメントの視点でアセスメントを実施	地域生活のイメージ作り	暮らしの場の見学、体験、意思確認	定期的な訪問		
	個別支援計画の作成	生活リズムのデザイン	地域移行に向けた日常で取り組めるプログラムの実施	見学、体験の調整	体験を通じた支援方針の見直し	支援のバトンを引き継ぐ		
入所に向け、本人への情報提供、相談	本人への情報提供 手続き支援	入所前後の状況確認	生活リズムの安定を確認	障害福祉サービス利用に向けた意思確認	地域移行に向けた引継ぎやサービス調整	本人の生活状況確認と生活の安定	定着期のモニタリング	緊急時には、その人を知る全ての機関が協力しながら対応します
入所の意向を本人、家族へ確認	入所等への情報提供調整	家族、支援者支援	暮らしのイメージについて確認	見学や体験の調整、実施	見学や体験を通じた意思確認	入所を含めた関係機関とカンファレンス	地域生活支援の継続	
関係機関（パートナー）～情報共有、手続き、サポート等								

連携
早見
表

相

区

G

提

通

地

相

区

G

提

通

体

地

相談支援センター

区役所

グループホーム等

拠点型

通所施設

体験宿泊

地

地域リハ

各フェーズのポイントと関係機関の繋がり

0	<ul style="list-style-type: none">・ 相談支援センターや区役所のケースワーカーを中心に、関係機関が連携し、本人の希望の暮らしを検討する。・ 関係機関等は、入所施設へのニーズが高いと判断した場合には、本人同意の上、エントリーを行う。	4	<ul style="list-style-type: none">・ 関係機関で、本人とともに希望の暮らしを検討していく。・ 入所施設は、グループホーム等の見学や体験を実施する。・ 体験後に関係機関で本人の意思確認を行う。課題等があれば、支援に反映する。	<div>メモ（各機関で必要なポイントを記入）</div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div>
1	<ul style="list-style-type: none">・ 入所調整カンファレンスで関係機関から入所候補者の情報共有を行う。・ 入所施設は施設内で入所調整会議を開催し、入所候補者の選定を行う。・ 入所施設は、入所前カンファレンスを開催し、関係機関と入所に向けた準備を行う。・ 本人に対し、施設見学や地域移行に向けた支援の説明を実施し、入所の意思確認を行う。	5	<ul style="list-style-type: none">・ 関係機関でクライシスプランを作成する等、地域移行に向け情報整理を行う。・ 関係機関で連携しながら、地域移行先の見学、及び体験を実施する。・ 体験後の本人の意思確認を関係機関で行う。課題等を含めて共有し、調整していく。・ 関係機関で入居に向けた必要備品の準備を行い、入居をサポートする。	
2	<ul style="list-style-type: none">・ 入所施設は、ゼロからアセスメントを実施し、本人の生活リズムの安定を目指す。・ 入所施設は、環境変化への適応を目指し、環境設定や支援方法の検討を行う。・ 今後の暮らしに向けたプログラムや、本人のストレングスを活かしたプログラムの検討を行う。	6	<ul style="list-style-type: none">・ 入所施設は、様子伺いしながら、徐々に地域の支援者にバトンを繋げていく。・ 地域の支援者は、本人の新生活をアセスメントし、環境調整や必要なサービスの調整等を行う。	
3	<ul style="list-style-type: none">・ 入所施設は、地域での生活を意識した支援を展開していくため、アセスメントを実施する。・ 地域資源を積極的に活用しながら、社会生活力が広がるようなプログラムを実施する。	7	<ul style="list-style-type: none">・ 相談支援センターを中心に、インフォーマルな資源を積極的に活用しながら、本人のQOL高めていく。	
		緊急時	<ul style="list-style-type: none">・ 本人を知る全ての支援者は、必要に応じ、環境調整等を行う等し、地域生活が破綻しないようサポートする。	

※地域移行は本人や、ご家族の思いだけでは実現できません。数多くの関係機関の協力が必要不可欠です。一人ひとりの状況に合わせて支援計画していく為、関わる機関は異なります。